

令和6年度 大島商船高等専門学校 数理・データサイエンス・AI プログラム自己点検評価（応用基礎レベル）

評価日時： 2025 年 9 月 25 日 会議名称： 自己点検・評価委員会 開催場所： 大島商船高等専門学校

参加者： 学校長，副校長（総務主事，教務主事，学生主事，寮務主事），専攻科長，各科の学科長，事務部長他（自己点検・評価委員会委員）

目的： 令和6年度の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの自己点検・内部評価

評価項目： 文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

認定制度（応用基礎レベル）の審査項目	モデルカリキュラム	内部評価	評価理由
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、AI を実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6. 数学基礎 1-7. アルゴリズム 2-2. データ表現 2-7. プログラミング基礎	A	授業評価アンケートにより，We b シラバスに記載されている授業内容を実施されていることが確認されている。データ処理に必要な数学，AI を実現するための概念や知識の習得ができた。
(2) AI の歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAI を活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI 基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」について審査する。	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス 1-2. 分析設計 2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング 3-1. AI の歴史と応用分野 3-2. AI と社会 3-3. 機械学習の基礎と展望 3-4. 深層学習の基礎と展望，3-9. 身体・運動	A	授業評価アンケートにより，We b シラバスに記載されている授業内容を実施されていることが確認されている。各学科の専門科目，実験実習を通してデータサイエンス基礎，機械学習の基礎と展望および深層学習の基礎と展望について学ぶことができた。
(3) 「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI 活用 企画・実施・評価」について審査する。	各学科の専門分野の特性に応じた演習やPBL 等を効果的に組み入れることにより，実践的スキルを修得する。	A	実験実習，演習科目，卒業研究などを通して，各学科の専門分野の特性に応じたPBL 教育に取り組むことができており，実践的なスキルを修得することができた。
(4) 履修状況，単位取得状況，学習成果の審査	成績会議資料	A	成績会議資料から，情報工学科の学生の単位取得状況は良好であることが確認された。現在，2 年生まで新カリキュラムが適用されており，将来的には認定に必要な科目を見直すことを計画している。

(5) 学生の満足度の審査	授業評価アンケート，卒業生アンケート	A	授業評価アンケート，卒業生アンケートの結果から，５点満点の４点以上 を獲得できている。学生の満足度を満たしていることが確認できた。
---------------	--------------------	---	---

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。 A：審査項目の観点通りの成果を達成した。
 B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが，達成に向けての対応策が立案され，対応に着手している。
 C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに，達成に向けた対応策が立案されていない。